

製本の方法

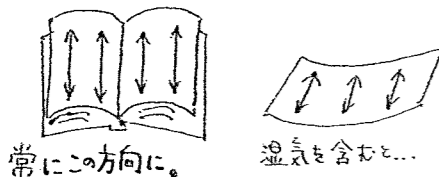
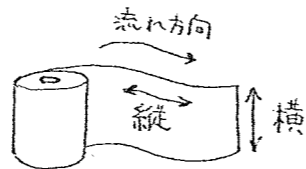
- 材料 ケント紙(白 10 枚)、見返し(ミューズコットン2枚)、ボール紙、表紙用クロス、仕掛け用画用紙、寒冷紗、花布、しおり紐(必要であれば)

◇ 紙の特性 ◇

紙の縦と横

機械で漉いた紙は流れ方向と幅方向で異なった性質を示します。

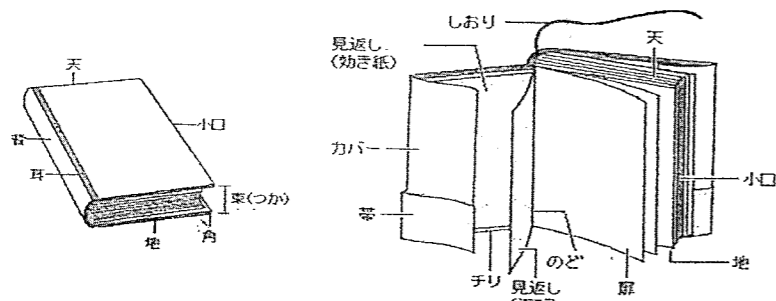
繊維の流れ方向を「縦目」、流れに直角の幅方向を「横目」と呼びます。



	縦	横
引張り強度、耐折強度	強い	弱い
引き裂き強度	弱い	強い
湿度による変化	小さい	大きい

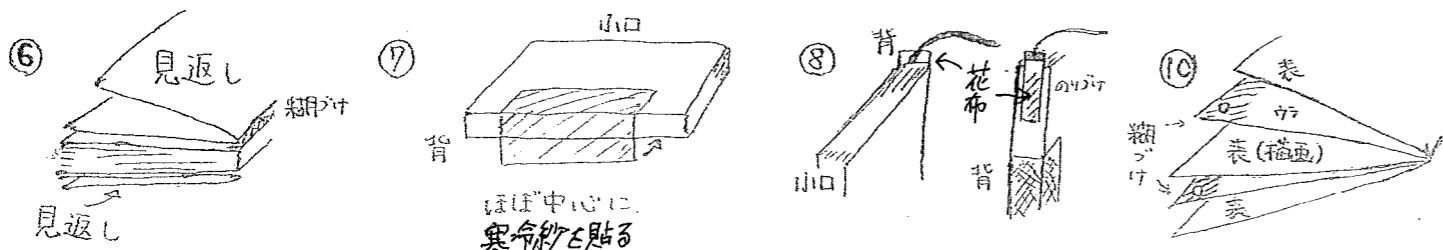
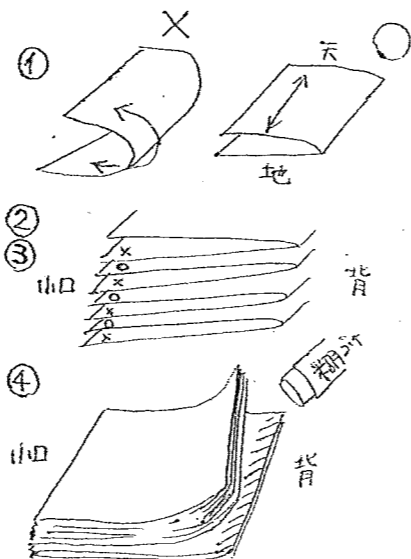
製本は全て糊を使用する(つまり水分を含む)ため、ずれやゆがみの出ないように紙の縦横に注意してください。

◇ 本の各部位の呼びかた ◇



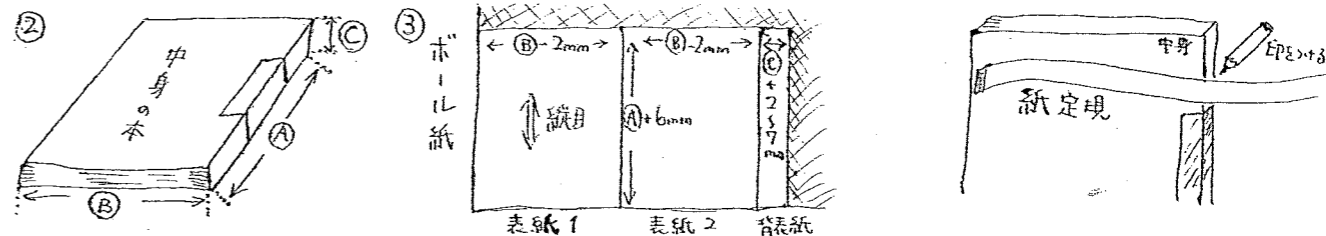
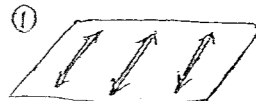
○ 本文(中身)づくり ○

- ① ケント紙と見返しを オモテ面を内側にして、丁寧に2つ折りにする。
- ② ケント紙を全て重ね、小口の下角に鉛筆でXOを一枚ずつ交互に記入する。
- ③ しっかり折り目をつけ、再びずれのないよう重ねる。(利き手がわに折り山)
- ④ 反対の手でめくり上げながら、折り山の下から順に8mm幅ほど糊を入れる。
- ⑤ 糊入れがおわったら両手でよく押さえ、しっかり圧着させる。
- ⑥ 折り山の上に8mm幅ほど糊を付け、見返しを貼り付ける。
- ⑦ 寒冷紗の全面にボンドを塗り、背に貼る。
- ⑧ 花布としおり紐をボンドで貼る。
- ⑨ 中身の描画、仕掛けづくりをする。
- ⑩ 仕掛けを作り終えたら小口のO印の面に糊を入れ、最後にしっかり押さえる。

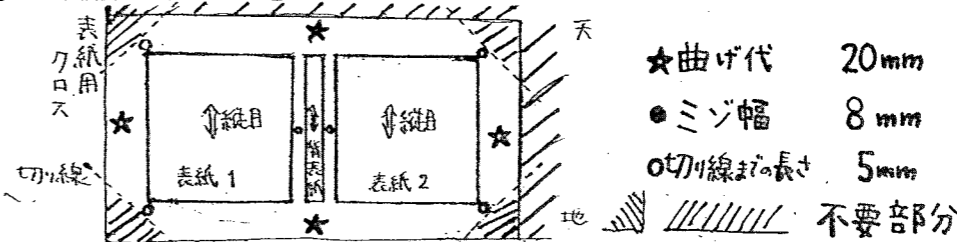


○ 表紙づくり ○

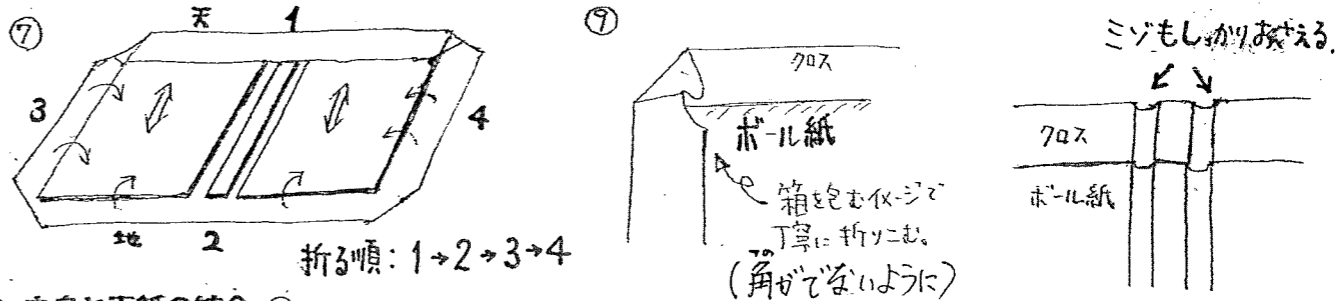
- ① ボール紙の縦目を確認、数か所に矢印↑を記入する。
- ② 紙定規を使って中身の寸法(天地A、小口B、背幅C)を測り、印をつける。
- ③ 紙定規にボール紙の寸法(下記参照)を記入し、ボール紙に製図し、金定規をあててカッターで切る。
表紙用ボール紙(2枚) ... (A+6mm) × (B-2mm) ☆カッターは一発で切ろうとせず、力を抜いて何度も刃を通すのがコツ
背表紙用ボール紙(1枚) ... (A+6mm) × (C+2mm~7mm) ※背幅は中身の仕掛けに応じて調節する。



- ④ 表紙用クロスの裏面に③のボール紙を下図のように配置して印をつけ、不要な部分は切り離す。



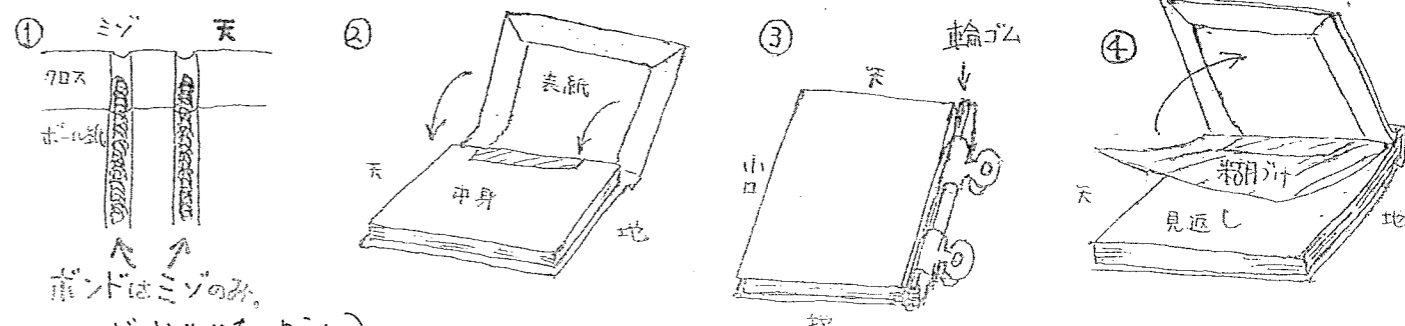
- ⑤ ボール紙の片面全体に糊をぬり、印のとおり表紙用クロスに置く。
- ⑥ 四隅をボール紙の角から6mm残してハサミで切る。(2等辺三角形の形で切り取る) (上図、○印)
- ⑦ 表紙用クロスの曲げしろ部分に糊を付け、天地、小口の順で折り曲げる。
- ⑧ よれないようしっかりクロスを引っ張りながらボール紙に密着させ、よくこすってなじませる。
- ⑨ 側面、角、ミゾなどクロスが浮きやすい部分もヘラや定規を使って密着させる。



○ 中身と表紙の結合 ○

- ① 表紙のミゾにボンドを塗る。(天地それぞれ3mmは塗らない)
- ② 表紙の片側に中身を置き(天・地・小口それぞれ3mm内側に配置)、もう片方の表紙をかぶせる。
- ③ 表紙の位置が決まったらへらでミゾを押さえ、ミゾ部分に輪ゴムをきつめにかけその上から目玉クリップを付ける。
- ④ 片方の表紙を持ち上げて、見開きの裏面に糊をぬり表紙と貼り合わせる。(この時あまり表紙を持ち上げすぎないこと)
- ⑤ もう片方も同じように貼り合わせ、上からおもしなどでよく押さえてプレスする。

⇒ 完成！！



(天地や小口にボンドがつかないように)